

2013年度 センター試験 日本史B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：6題	解答数：36問
難易度の変化（対昨年）	難化 やや難化	変化なし やや易化 易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし 減少
出題分野の変化	あり	なし
出題形式の変化	あり	なし
新傾向の問題	あり	なし

総評

形式も難易度も一般的な問題であった。図版問題に関しては写真（1点）・地図（2点）・図版（2点）・史料（2点）・表グラフ（3点）と非常に多くなったのが今年度の特徴である。単純な歴史用語を覚えるだけでは対応できず、視覚的な読み取りや分析力も必要である。正誤判定問題に関しては、用語の誤りだけではなく時期判別が問われるものが多かった。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	北海道と沖縄の歴史	12点	北海道と沖縄をテーマにした問題。地域史としては王道の出題のされ方である。図版の読み取りは注を使用すれば解く事ができる。標準的な問題であるので確実に得点したい。
第2問	原始古代の政治・宗教・文化	18点	古墳時代の政治と外交、奈良時代の政治が出題された。出題の形式も難易度も標準的な問題であるので高得点を狙いたい。
第3問	中世の宗教・文化	18点	鎌倉・室町時代の宗教や文化の混合問題である。問3の図版は過去にも出題されたことがあった。3年連続日明貿易が出題された。中世は文化史が頻出テーマであると言える。
第4問	近世の政治・経済・社会	17点	文治政治期と18世紀末から19世紀前半の政治・経済・社会に関する問題である。問2の日光東照宮陽明門（写真）の出題は過去にも見られる。グラフは数値を見れば解答を導き出すことができる。
第5問	明治期の特許制度の成立	12点	リード文には特許制度となっているがまったく設問には関係ない。実際には殖産興業からの出題である。グラフや表は未見であるが分析は容易い。
第6問	20世紀の日本における軍事と政治・経済・社会	23点	戦後史は2問の出題（昨年3問）であった。問6のシンガポールでの華僑殺害事件は細かい知識であった。歴史事象の時期を把握していなければ解答できない問題が多かった。